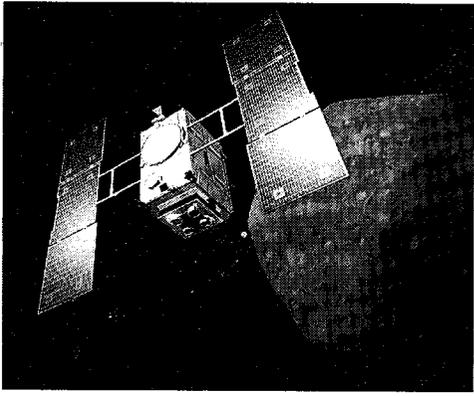


生命起源探査／複数回の任務可能

「はやぶさ2」万能型

「はやぶさ2」(仮称)のCG＝池下章裕氏・JAXA提供



宇宙航空研究開発機構(JAXA)は14日、小惑星探査機

「はやぶさ」の後継機の概要を明らかにした。先代はがれきの集まりだった小惑星「イトカワ」に着陸したが、後継機は生命体などに関係する有機物が豊富な小惑星を目標に定めた。大きな弾丸を小惑星に放って直径数センチのくぼ地(クレーター)をこしらえ、より地下深くの鉱物採取も目指す。

概算要求は
来月に結論

JAXA 有機物多い小惑星へ

同日開いた文部科学省(称)「は、2014年の宇宙開発委員会に報告打ち上げを想定。地球から約3億キロ離れたイトカワの近くにある「1999 JU3」という小惑星へ向かう。この小惑星はC型というタイプで、S型に分類されるイトカワよりも炭素などの有機物が多いとされる。後継機はふたたび着陸を試み、鉱物や有機物などを地球に持ち帰る。異なる小惑星を比較することで、46億年前に誕生した太陽系の誕生の起源をより詳しく解明できるとみている。

後継機は、イオンエンジンや化学エンジンなど先代の基本設計を引き継ぐ。ただ先代はカプセル

え。複数の任務を果たす万能型となる。先代の地球帰還は当初4年の計画が3年遅れた。研究者が奇跡と表現する綱渡りの飛行だった。技術的な課題は多く、後継機では確実に帰還できる技術の獲得が求められる。後継機の製造費用は今後詰めるが、百数十億円はかかると思われる。先代のはやぶさについては、カプセルにイトカワの砂ぼこりが入っているか分析している。

専門の部会で本格検討することを決めた。8月上旬までに結論を出す。後継機「はやぶさ2」(仮

素などの有機物が多いとされる。後継機はふたたび着陸を試み、鉱物や有機物などを地球に持ち帰る。異なる小惑星を比較

することで、46億年前に誕生した太陽系の誕生の起源をより詳しく解明できるとみている。後継機は、イオンエンジンや化学エンジンなど先代の基本設計を引き継ぐ。ただ先代はカプセル